

南禪寺長老清拙上人禪室

〔賢俊僧正日記〕貞和二年四月廿九日丁丑、洞院左府、執權、久我相國等罷向、田中庄事、大概召文書了、五月一日己卯、今日播州田中庄事、被遂評定云々、雜掌及晚歸來、宜雲透也云々、四日壬午、田中庄勅裁、今日到來得理了、仰付堯觀了、仲村事、堯觀請文書進之、又所務法式被仰了、下御教書了、公用又三千匹、就之沙汰了、六日甲申、田中庄事爲悅申、洞院、執權、久我以下方ニ罷向了、面々悅申了、〔峯相記〕又問曰、所々靈場本緣起承度候、答云、○中魚吹八幡者、是ヲ推スルニ、大菩薩初而御上ノ時、當國神達、賀古郡ニ詣テ集リ、御迎ニ伊保川ノ邊ニ參會シテ、神樂祭禮ノ儀有キ、○中其時神集會ノ所ヲバ神出ノ保ト云也、

〔榎戸文書〕御領目錄 人給付之

一伏見御領依早水損年貢播磨國 別納十ヶ所○中 一玉造保○二千五百正 庭田大納言○中

永享十二年八月廿八日

〔慶應元年武鑑〕酒井雅樂頭忠績溜間從四位少將元治二丑正月任

拾五万石 居城播州飾東郡姫路 江戸ヨリ 百五十七里餘

永祿年中、小寺職隆居、天正八、秀吉公羽柴美濃守秀長、同肥後守家定、同右衛門佐勝、後慶長五、池田三左衛門輝政、同武藏守利隆、元和三ヨリ本多美濃守忠政、同中務大輔忠刻、同甲斐守政朝、寛永十、六、松平下總守忠明、同下總守忠弘、慶安元、松平大和守直矩、天和四、本多中務大輔政武、同吉十郎忠孝、原刑部大輔政房、同熊之助忠倫、寛文七、松平大和守直矩、天和四、本多中務大輔政武、同吉十郎忠孝、寶永元、榎原式部大輔政邦、同寛延二ヨリ酒井雅樂頭忠泰、以後代々領之、大和守明矩、同喜八郎矩、寛延二ヨリ酒井雅樂頭忠泰、以後代々領之、大廊下從四位上少將文久、元四十二、月任

〔慶應元年武鑑〕松平兵部大輔慶憲 拾万石御格八万石 御在城播州明石郡明石 江戸ヨリ海陸

百四十一里餘

往古別所山城守居、後黑田甲斐守長興、元和三、小笠原右近將監忠貞、寛永九、松平丹波守光重、同十八、大久保加賀守忠季、慶安二、松平山城守忠國、同日向守信之、貞享元、本多出雲守政利、天和二、松平若狹守直明、以帝鑑間朝敵大夫、後代々領之、脇坂淡路守安斐 五万八千九百石餘 居城播州揖西郡龍野 江戸ヨリ 百六十里

藩封